

脳波測定 記録条件

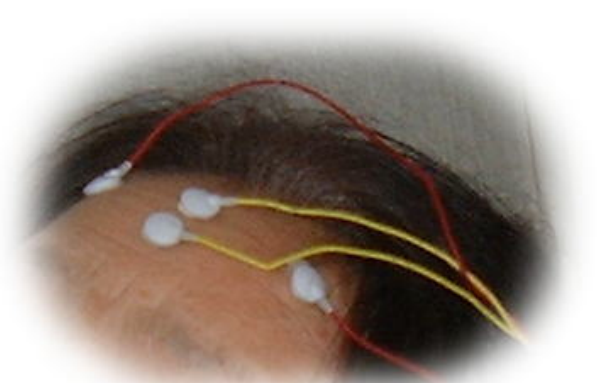
□ データ記録方法

脳波計の表示時刻とストップウォッチにて記録と照らし合わせて記録

【開始】－【安静】1分－【刺入】－【置鍼開始】20分－【抜鍼】－【安静】1分－【終了】  
という手順で時刻と脳波データを記録

□ 測定機器

TEAC の脳波用血銀電極付きコード付きの4チャンネル生体アンプ (BA1104-E) 脳波用を使用し、電極は4極 (4ch) の内2極を使用して前頭葉を計測<検出電極(1)―増幅器(2)と耳アース(3)>  
データレコーダ OMRON ZR-MDR10 アナログ入力8極 (8ch) の内4極を取り出して生体アンプに接続して使用<データレコーダ(4)(USBで)→PCへ送りソフト(5)にて記録を取り出す。記録データの解析を行う。



Setup : サンプリング 2K 2ch アナログ入力レンジ 200mv オシロ 100mv 20ms  
同時に「痛み」を指標とするために10段階のペインスケールを用いる。  
脳波は開始時から時間とともに記録されているので、置鍼開始時と20分の置鍼後の安静開始時を記録。膝は40度の角度をもたせ、ここへ中国(天和)製ステンレス  
スポーン鍼 0.20×40mm を4本使用し、膝蓋骨周囲の疼痛部に30mmの深さまで  
直刺で刺入



被検者 T.S 女 昭和5年5月31日 生まれ  
病名：右変形性膝関節症 (動作時に疼痛)

《第一診目》

症状：

- ・ 天候悪化で憎悪
- ・ 歩行時杖必要
- ・ 椅子に座すこと多し
- ・ 階段降りる時つらい
- ・ 膝の裏スジが歩行時に痛む (300m で1度休み)

【開始】－【安静】1分－【刺入】－【置鍼開始】20分－【抜鍼】－【安静】1分－【終了】

18:01

18:21

開始時 P\_8 置鍼後 P\_6 超音波後 P\_5

《第二診目》

症状

- ・ 杖をつかずに歩けるようになる
- ・ 午前はややつらかったが午後には階段を降りる時つらくなくなった
- ・ 膝裏つらくなくなる
- ・ 膝が腫れた感じがやや残っている
- ・ 膝崩れ日に2、3回ある

【開始】－【安静】1分－【刺入】－【置鍼開始】20分－【抜鍼】－【安静】1分－【終了】  
17:29 17:50

開始時 P\_3 置鍼後 P\_3 超音波後 P\_1

《第三診目》

症状

- ・ 杖をつかずに歩ける
- ・ 買い物で1時間歩行するも問題ない
- ・ 階段も苦ではない
- ・ 膝裏スジは少しつれる
- ・ 膝崩れ1回あり

【開始】－【安静】1分－【刺入】－【置鍼開始】20分－【抜鍼】－【安静】1分－【終了】  
17:28 17:49

開始時 P\_3 置鍼後 P\_2 超音波後 P\_1

《第四診目》

症状

- ・ 杖は必要ない
- ・ 午前中足が少し重く感じたが午後は感じなくなる
- ・ 階段も楽
- ・ 膝蓋骨上部辺縁の中央が1箇所だけ少し痛む
- ・ 膝崩れ1回あり

【開始】－【安静】1分－【刺入】－【置鍼開始】20分－【抜鍼】－【安静】1分－【終了】  
17:20 17:41

開始時 P\_2 置鍼後 P\_1 超音波後 P\_1

《第五診目》

症状

- ・ 杖は必要ない
- ・ 午前、午後とも変化無し
- ・ 階段も普通に歩ける
- ・ 膝蓋骨下部辺縁の中央が1箇所だけ少し痛む
- ・ 膝崩れ無し
- ・ 歩くのに不安は全く無くなり自信を取り戻す

【開始】－【安静】1分－【刺入】－【置鍼開始】20分－【抜鍼】－【安静】1分－【終了】  
17:08 17:28:30

開始時 P\_2 置鍼後 P\_1 超音波後 P\_1